

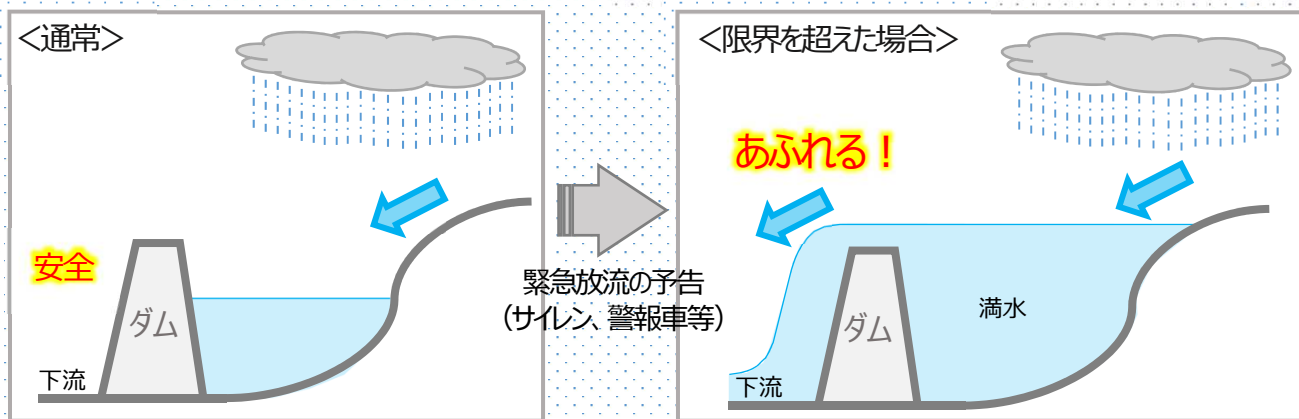
平成30年7月豪雨では、中四国地方を中心に、多くのダムにおいて大規模な洪水が発生しました。これは、ダムが満水となり、上流から流れてくる雨水を貯めることができなくなった結果、ダムの下流で甚大な氾濫被害が生じたものです。

気候変動により想定外の洪水リスクは高まっています。鳥取県内でも同様の被害が発生する可能性があります。ダムの限界を知り、身を守るための避難行動が必要です。

ダムの限界

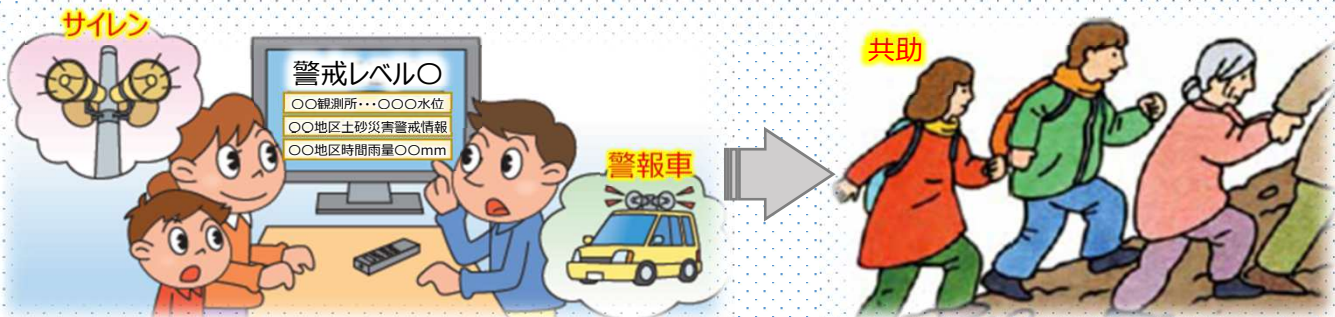
ダムの能力の範囲内の雨であれば、上流から流れてくる雨水をダムに貯め込み、下流は安全。

平成30年7月豪雨のような大規模な雨が降り、ダムの能力の限界を超えると、ダムに流れてきた雨水がそのまま下流へ流れていき、下流では氾濫被害が発生。



ダム放流への備え

サイレンや警報車でダム放流の予告があった場合は、地域で助け合って速やかに避難をしてください。



鳥取県では、ダム放流での被害者ゼロを目指して実効性のある避難対策等を確立したいと考えています。

南部町内の賀祥ダム・朝鍋ダムにおいても、今後、様々な取組を進めていく予定であり、まずは、ダムの下流にお住まいの皆様に対して、ダムの機能や放流情報の伝達方法等をご説明したいと考えています。併せて、避難訓練を実施したいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

緊急放流の予告

異常降雨等により、ダムへ入ってくる水が多くなり、ダムが満水になる恐れがある場合、緊急放流を行います。

その場合、避難に要する時間も考慮した上で、前もって警報局からサイレンを鳴らすほか、自動アナウンスを放送します。また、パトロールカーによる通報を行います。

<放流前のサイレンの鳴り方>



<自動アナウンス例>

～こちらは、鳥取県賀祥ダム管理事務所です。ただ今より、賀祥ダムから水を流します。川の水が増えて危ないので、川から離れて十分注意してください。～
…繰返し2回…

<警報局の位置、パトロール経路>

